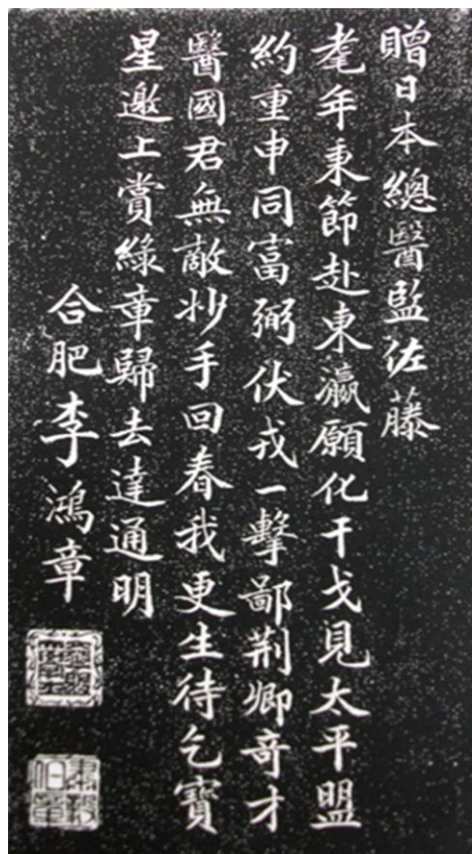


「贈日本総醫監佐藤」 李鴻章

原文

書下し文

老年秉節赴東瀛	もうねん せつ と とうえい
願化干戈見太平	願はくは、干戈を化して、太平を見ん
盟約重申同富弼	盟約の重申、富弼に同じく
伏戎一擊鄙荊卿	伏戎の一撃、荊卿を鄙にす
奇才醫國君無敵	奇才、國を醫ふ、君無敵なり
妙手回春我更生	妙手、春に回す、我更生せり
待乞寶星邀上賞	待て、寶星を乞ひ、上賞を邀ふるを
綠章歸去達通明	綠章もて歸去し、通明に達せん



李鴻章七言律詩（拓本）

現代口語訳

七十歳を過ぎた私は、清國光緒帝の命を受け、全權大臣となつて、東海の国、日本にやつてきた。
願うところは、日清間の戦争を終結させ、平和を実現することである。
講和の約束を守ると重ね重ね申し上げるのは、北宋の宰相で外交に尽力した富弼と同じ思いだ。
私を襲つた暴漢の一撃は、秦の始皇帝暗殺を謀つた荊軻に比べれば、取るに足らない。
稀なる才知に溢れた貴君は、危機的な国難を救つた。誰も貴君に敵うものはない。
その優れた手腕のお陰で私は快癒し、再び生き返ることができた。
どうかお待ちください、貴君が寶星勳章をもらえるよう取り計らうので、お上からの褒賞を受けるのを。
その手続きのための上奏文を持つて帰国し、必ず光緒帝にお伝えいたしますから。



旧活人劍の副碑
(下が李鴻章律詩)